

名主考

(一) 名主の呼称

史料1A 呼称変更 (須坂市文書館 氏吉池一彦家文書)

覚

一 当村名主名目御免之義、左に御答

申上候御事

一 明和元年申の五月廿八日、御願申上候

願書之安(案)文

一 只今迄、役名肝煎と相名乗り来る候処、他所

出会之節役名軽く相聞え、其上村方

小百姓之義も肝煎名目にては甚軽く存

迷惑至極奉存候、依之御情に名主名目に

被仰付被下置候様に奉願候、幾へにも御慈悲之

御意奉□□、以上

申五月

小川原村 肝煎 たれ

福嶋村 肝煎 たれ

仁礼村 同断

小布施村 同断

相之嶋村 同断

職御奉行所

御郡御奉行所

御代官所

右願書差上候処、同六月五日矢野式左衛門様御しらす

において願之通り御免之御意仰被渡候て、其上別紙之通り

御請連印差上申候義相違無御座候事

史料1B 呼称変更 請書

仁礼村

小河原村

小布施村

相之嶋村

福嶋村

仙仁村

只今迄役名肝煎と

相唱来候処、他所

出会之節、役名軽く

相聞、迷惑に付、自今

名主と相唱度旨

願之通被

仰付候、有難奉存

萬信御掟之趣

相守、役目嚴重

可相勤者也

(明和元年) 六月

史料1C 通達

村々肝煎共へ

此度、願之通、名主名目

相名乗候得に付、弥以万端

正路に取計ひ、役目に威

光を以、自分の奢り無之

様に可相慎事。小百姓へ親み

有之は自然と存付、格別に

重し可申候、前々も被仰出

候通、大小百姓耕作出精

おこたり共、費有之百姓取
続候様に申合、行不屈者へは
常々異見を加、村中
一和致候様に可相心掛候事

(一) 名主の選任

史料2A 倅が襲名

其村庄屋七左衛門就
病死、倅八十八跡役
申付候条、有来諸帳面
目録等、組頭立合、引
渡之役義精密に可
相勤者也

藤本安衛門 印

宝曆三年

酉十一月

小野崎佐人

庄屋

目■村 組頭

惣百姓

史料2B 甥が襲名

取替申證文之事

一 村方百姓五郎兵衛儀、六年以前、辰十二月中病死致
跡式之儀、相談を以私次男伝右衛門を差越、相続仕候処、
伝右衛門義、去申十二月中、病死仕候得ば、跡式相立候
手立無御座、難儀に付、貴殿義は株分之家と申、殊に
お綱儀は、五郎兵衛妹にて御座候間、五郎兵衛後家

おのへ方より貴殿親子共に本家へ立帰り、家督
相続仕呉候様に、達て相願候に付、親類中相談之上
後家願之通御究め被下候、右に付、貴殿株高跡式
之儀、おのへ方へ御譲り被下候て、熟談立上相究
申候、然上は以来共少も申文無御座候、為後證一札
仍如件

獅子ヶ谷村

五郎兵衛後家

寛政十三酉年正月

おのへ 印

綱嶋村

後家父親

重左衛門 印

同村親類

与惣左衛門 印

小田村口合世話人

七兵衛 印

獅子ヶ谷村

伝蔵 殿

史料2C 他の者を立てる (別府大学図書館蔵 浅田家文書)

乍恐以書付御願奉申上候

五馬市村

持高拾四石式斗五升三合

信作 印

從兄

糺竹村庄屋

新五郎

右は五馬市村庄屋周平病死後、跡役のもの
人当難取極、押役罷在候処、此節村中一統
熟談之上、右信作儀、人柄実跡にて筆算等も

相應に仕候者に御座候間、同人へ庄屋役被仰付
被為成下候様奉願上候、尤当村之儀、宿場其外
御用役等之村柄に御座候間、右信作、未夕若年
に付、行届兼候儀も御座候間、隣村組合村之内
糺竹村庄屋新三郎へ後見役被仰付被下候様
奉願上候、尤右両人勤役中、万一御年貢米銀
引負等仕候はば、村中より急度弁、上納可仕候旨
格別の御慈悲を以願の通被仰付被下置候はば
村中一統御救之程、難有仕合に奉存上候、別紙
村方一統より願書奉差上候、私共御糺
御座候得共、私共においては故障筋毛頭
無御座候に付、此段以書付一同御願
奉申上候、以上

日田郡五馬市村

戊九月

百姓 清兵衛

善 平

日田

栄右衛門

御役所

史料2D 名主入札（選挙）

一 当村庄屋清七御役儀御願申上御免
被仰付、則代役相勤可申者、村中相談
之上、三四人も書上候得と被仰付、奉得
其意村方相談仕候處、相定り不申候段
申上、村中入札仕、則入札小帳差上げ申候、
御吟味之上、札数多候故、庄屋役甚左衛門へ
被仰付難有奉存候、然上は、右甚左衛門
御役儀、何ヶ年相勤候共、私共御請合申上
如何様之不調法出来仕候共、私共として

急度埒明、御公儀様へ毛頭御苦勞
申上間敷候、為後之年、連判之證文
仕上げ申候。以上

請人房嶋村

弥左衛門 印

元文四末年

八月廿九日

三右衛門 印

甚三郎 印

佐七 印

半四郎 印

（以下略）

御代官衆中様

2E 名主になるため借金

相渡申一札之事

一 高式拾石也

上吉野村 貴殿
懸持借高之分

右は此度村方庄屋役之義、前々より壹ヶ年
替り廻り庄屋、当年相勤役相成候所、何分庄屋
役之義勤度候得共、村極めにて高式拾石所持無之
候ては庄屋役勤兼候に付、当壹ヶ年分、貴殿上吉野村
懸持高之内、前書之通借高仕候■（処力）実正に
御座候、然上は役中に郡中米引負いたし
右借高に相拘候節は、親類一同弁金致、貴殿之借
高に一切御損分相懸け申間鋪候、為其請合親類
一同、連印を以一札相渡申候、依而如件

上吉野村

嘉永二酉年

借高人

彦治右衛門 印

二月

同村

親類請人 彦八 印
同 市郎右衛門 印

百罷町村

(三) 名主の表彰、榮譽

史料3A 苗字帶刀

上大岡村

名主 北見安次郎

其方儀、出精之以思召、苗字帶刀

御免被成下、就ては先格之通

為御扶持米壹ヶ年四斗俵

貳俵取被下置候間、御年貢

米之内にて引去り可申もの也

御地頭

子八月 用所 印

史料3B 居宅玄關拵

其方儀、年来出精

相勤候に付、出格を以

思召、居宅門、玄關

附拵、槍所持いたし

不苦旨、御差許被成下候間

可得其意もの也

御地頭

用所 印

上大岡村

御代官

北見安兵衛

同村新田親類惣代
栄右衛門 殿

史料3C 米一俵下付

覺

一 御米 壹俵

其方義、父安兵衛儀、名主役

■年来、御用向御差支

無之段、出精に相勤候段

達

御聴候、依之書面之

御米、亡父へ被下置候条

御収米之内にて引取

頂戴可致候、以上

倉橋甚輔 印

大岡村

名主安兵衛へ

史料3D 代官任命

御用弁宜、田村作衛門

死去之節は早速出府、同人

勤役中の取調向、其外

御用取扱候に付、出格之

思召を以御給人格

御知行所惣躰之御代官

被仰付、御脇差并

獅子ヶ谷村名主

五郎兵衛

御役服被下之、御宛
行之儀は、是迄壹ヶ年
給米貳俵、扶持貳俵之處、
三俵之御加扶持、都合七俵
被下之、仍ては以来三月
七月、十二月、二三季■払
勘定之節は致出府
入念取扱可申候

寅十一月 御地頭所 印

上大岡村
北見安兵衛

史料3E

覚

一 其方事、代々名主役申付之處、万事
実躰相勤に付、今度屋敷・畑・山藪共に
壹ヶ所、都合三ヶ所、貳町五反四畝
拾八歩之所、其方へ被下置候、右之
祝儀為御礼金貳拾八両差出之、尤に候
我々立合、慥請取候所、相違無之候、依而如件

享保貳拾貳年丁未年正月 永田五郎左衛門 印

飯尾新五衛門 印

浜中 宗介 印

村上 数衛門 印

笹沼 武太夫 印